

かわだんぎ
川談義 (4)

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

第 3 号

平成 30 年 3 月

北上川で楽しみましょう

清水 晃

(岩手河川国道事務所長)

1. はじめに

就職後、河川に関する仕事に携わってきましたが、その間に体験したこと、感じたことなどを述べさせていただきます。なお、個人的な感想や考えであることをご了承くださいと思います。

2. 川の中での体験

川での体験活動を初めて行ったのは、平成15年の夏、宮城県の広瀬川でのことです。初心者カヌー教室に参加し、プールでの練習を経て、最後には広瀬川の川下りを行うことが出来ました。周りの方々に助けをもらいながらの川下りでしたが、新たな川の魅力、楽しみを発見することが出来、大変に貴重な体験となりました。次の川での活動は、平成20年の夏、関東の荒川の上流、埼玉県長瀬町でした。川の流れを感じながらの歩行、スローロープの練習、川流れ、飛び込みなどの実技と、夜は、講義と懇親の時間があり、本当に、あっという間に時間が過ぎました。川の楽しさの体験と、危険を学ぶことが出来ました。

川での体験は、せせらぎの音、水の冷たさ、流れの強さ、日射しの強さと木陰の爽やかさ、生物の多様性など、様々なことを直接そして同時に感じる事が出来ます。文章では上手く伝えることは出来ませんが、川での活動の楽しさは、体験しないとわかりません。そして、ライフジャケットの有効性・必要性が身に染みた経験で

した。

3. 水難事故

水難事故は、夏になると必ずと言っていいほど発生する大変痛ましい事故です。この水難事故のほとんどは、ライフジャケットを装着していれば防げた事故です。水難事故が多い場所は、川の流れが複雑な箇所、河原にバーベキューの適地があり酔ったまま川に入る人が多いところなどです。さまざまな対策が試みられていますが、なかなか減らないのは残念です。

個人又は団体で、川で活動をする場合には、自分自身と大切な仲間を守るためにも、ライフジャケットの装着が必要です。

4. 環境教育・防災教育

子供たちが、室内でゲームなどを楽しみながら、水や川について学ぶプログラム「プロジェクトWET」というものがあります。水の大循環（海→雲→雨→地下水→川→海）や、流域の概念、河川の汚染メカニズムなどを学ぶために、多くの工夫されたプログラムが開発されています。

室内でも出来ることから、天候に左右されず、イベント等で有効活用出来ると思われませんが、まだまだ知られていません。「プロジェクトWET」は、いろいろな場面で応用も出来るので、一度学ぶことをおすすめします。

5. 盛岡の良さ

盛岡に来て感じたのが、川と距離が近いことです。一級河川である北上川や中津川が街中に溶け込んでおり、多くの方々が散策などに利用しています。川幅もそれほど広くなく、ほどよ

い大きさに感じられます。

また、中津川では鮭の遡上を見ることができるようになり、注目度もさらに高くなっています。川を活かすことにより、盛岡がさらに良い街になる可能性が大きいと感じています。

6. 舟運の可能性

北上川に舟運を復活させようという試みが、「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」により始められています。ＪＲ盛岡駅にも近い北上川で舟運が復活すれば、大きな話題となるのは間違いありません。舟運復活のためには、川で遊ぶことが楽しいと思う人たちの増やすことが大切であると思います。川で遊ぶきっかけとしての舟運、川遊びをする人々の増加、それぞれが相乗効果を発揮して舟運が盛り上がり、さらにまちづくりへと繋がっていく、そんな未来の実現は遠くないと思います。

そのためには、現実的な課題を一つずつクリアする必要があります。関係する方々と意見交換しながら進めていけば、いろいろな知恵も出てくると思います。



7. 結び

以上、個人的な想いを述べさせていただきました。北上川では、毎年ゴムボート下りが実施されているなど、川に親しみを持っている人は多いと思います。そのような人たちを、より川に親しんでいただくための工夫を、たくさんの皆さんと意見交換しながら進めていきたいと思っています。

参考：

1) 川での活動について：川に学ぶ体験活動協議会 <http://www.rac.gr.jp/>

2) プロジェクトWET

<http://www.kasen.or.jp/wet/tabid121.html>

